

住宅のバリアフリー化による介護軽減効果

—震災による自然実験を活用した実証分析—

神戸大学 國光 類*

概要

本稿では、住宅のバリアフリー化が介護保険における要介護認定率に与える因果的効果を推定し、介護の軽減効果を明らかにする。特に、阪神・淡路大震災という自然実験を活用することで、住環境整備の内生性の問題を解決した。推計の結果、操作変数法による推定量がOLS推定量より小さいことから、先行研究は、住宅改修による介護予防効果を過小評価していた可能性がある。とりわけ、要支援2において推定量が小さくなり、高齢者のための設備を設置した住宅が10%増加すると、認定率が2.3%減少することが明らかになった。

* 神戸大学大学院経済学研究科 博士課程
e-mail: 080e103e@stu.kobe-u.ac.jp